

●降誕後第二主日

泉のほとり

今月の詩編「第五十二編」

御名に望みをおきます

あなたの慈しみに生きる人に対して

恵み深いあなたの御名に。



神のことばは必ず実現する

天使ガブリエルがマリアに遣わされ、「あなたは身ごもつて男の子を産む。その子は偉大な人になり、神である主は、彼に父ダビデの王座をくださる」と告げられました。「どうして、そのようなことがありえましょうか」と尋ねるマリアに、天使は「聖霊があなたに降り、いと高き方の力があなたを包む。親類のエリサベトも男の子を身ごもっている。神にできないことは何一つない」と告げ、マリアは「お言葉とおりの、この身に成りますように」と答えました。

マリアはエリサベトの妊娠を聞き、急いでユダの山地の町へと向かいました。ナザレから100キロを超える距離です。マリアが家に入り挨拶すると、その声にエリサベトの胎内の子が躍り、エリサベトは聖霊に満たされて、「あなたは女の中で祝福された方です。私の主の母が私のところに来てくださるとは」と声高らかに言いました。

テキストの書き方からは、マリアが事前の説明をしたとは読めません。確認したいのは、受胎告知から数日しか経っておらず、マリアにはまだ「つわり」も「胎動」もなく、まだ体に変化を感じていない時だったという事実です。妊娠の自覚がまだない中、挨拶だけで、「あなたの胎内の子も祝福されている」と言われ、マリア自身、この時、懐妊の事実が知らされたと思われま。

妊娠の事実を知らされ、マリアはこの時、喜びと感動を抑えられず、「私のたましいは主をあがめ、救い主である神を喜びたたえます」と神を賛美しました。男の人を知らない自分が身ごもると聞かされ、それが現実となっているのを実感し、神が約束通り、救い主を与えてくださることを、自分の身を通して実感し、「力ある方が、私に偉大なことをなさいました」と告白したのです。

誰にも信じてもらえないこの事実を、知るはずもないエリサベトの口から知らされる。ここに神のマリアへの深いご配慮があったと思います。エリサベトは「主がおっしゃったことは必ず実現すると信じた方はなんと幸いです」と言い

ました。彼女は聖霊により、マリアの胎内の子を「私の主」と呼び、「私の主」と呼ばれる方を通してなされる、すなわちメシアによる神のことばの成就を見ていたのだと思います。男を知らない女が身ごもつて子を産むと。誰が信じましょう。しかし、彼女はこの世の考え、自分の考えに捕らわれる人ではなく、聖霊にとらえられ、聖霊が見させるものをそのまま見る、澄んだ心の人でした。

この後のマリアの生涯を考えます。彼女はナザレで30年間、主イエスと共に暮らしました。後に主は「天の父の御心を行う人が、わたしの兄弟、姉妹、また母である」と語られます。マリア自身も、わが子を「自分の子」としてではなく、エリサベトのように「主」とし、その救いにあずかる民としての信仰に立たねばなりません。

主イエスの十字架は、母として剣が心を刺し貫かれる痛みでしたが、キリストの十字架と死がなければ人は生きられないのです。それはマリアも同じです。マリアもまた、後にこの意味を知り、わが主の十字架を愛して生きたのだと思います。なお、彼女は復活の主を知り、「その支配は終わることがない」との天使のことばは、死で終わることなく、復活によつて新たな真理として知らされたのではないでしようか。

御子を通して人の罪に対する「義」を行われた神は、人の罪の償いのささげものとされた御子を復活させられ、ご自分の国をこの御子のご支配のもとに置かれました。そのご支配は終わることはない。私たちは2026年を迎えた今も、その神のことばが成就していく中を生きています。時は近いです。

「主の時は遅れているのではない。あなたがたのために忍耐しておられる」と、すなわち私自身を傷のない、汚れない欠けたところのないものとするために、時が与えられているとの使徒たちの教えを思い起こしつつ、すべてが完成される主イエスの時を待ち望み、私たちも十字架を愛し、主が再び来られる日に備えて、自分自身を備えて日々励んでいきましよう。

2025年度

教会全体課題

聖書の御言葉に生きる。

わたしたちのヴィジョン

主イエスの愛の中で、

愛と交わりを通して

お互いに成長する教会

《今日のお知らせ》

○今日は新年礼拝です。

○礼拝後、クリスマス装飾の片付けを行います。

○運営委員会、各小委員会がそれぞれ行われます。

《ぶどうの会より》

本日、ぶどうの会はお休みです。

《教会事務会より》

一月六日(火)まで冬休みです。教会施設内に入ることができませんので、お忘れ物などございませんよう、ご注意ください。

《交 読 詩 篇》

※会衆は太字の箇所を唱和します。

〔司・会〕の箇所は司式者と会衆が合わせて唱和します。

【詩篇五十二篇】指揮者によって。マスキール。

ダビデの詩。エドム人ドエグがサウルのもとに来て、「ダビデがアヒメレクの家に来た」と告げたとき。

力ある者よ、なぜ悪事を誇るのか。

神の慈しみの絶えることはないが

お前の考えることは破滅をもたらす。

舌は刃物のように鋭く、人を欺く。

お前は善よりも悪を

正しい言葉よりもうそを好み

人を破滅に落とす言葉、欺く舌を好む。

神はお前を打ち倒し、永久に滅ぼされる。

お前を天幕から引き抜き

命ある者の地から根こそぎにされる。

これを見て、神に従う人は神を畏れる。

彼らはこの男を笑って言う。

「見よ、この男は神を力と頼まず

自分の莫大な富に依り頼み

自分を滅ぼすものを力と頼んでいた。」

わたしは生い茂るオリーブの木。

神の家にとどまります。

世々限りなく、神の慈しみに依り頼みます。

あなたが計らってくださいますから

とこしえに、感謝をささげます。

〔司・会〕

御名に望みをおきます

あなたの慈しみに生きる人に対して恵み深い

あなたの御名に。

《今日の子ども礼拝》

●子ども礼拝（午前9時20分・地下ホール）

説教 「囚われの身になっても」

聖書 ダニエル1章1～9節

説教者 吉村 和雄 名誉牧師

《次週の礼拝》

二十歳の祝福礼拝

●子ども礼拝（午前9時20分・地下ホール）

説教 「全てが神の前にある」

聖書 ダニエル6章19～24節

説教者 宮間 彰広 兄

●主日礼拝（午前10時30分・礼拝堂）

讃美歌 74番 225番

説教 「説教する教会」

聖書 使徒2章1～24節

説教者 吉村 和雄 名誉牧師





新年礼拝 (午前10時30分)

讃美歌 110番 279番
説教 「主に信頼し、自分に頼らず」
聖書 箴言3章5～8節(旧約 P.993)
司式 山下 純一 兄
聖餐司式 黄 允湜 牧師
説教者 黄 允湜 牧師

前奏曲「まどろめ、疲れた目よ」(カンタータ82番より)
ーイエスのお宮参りの日、シメオンの歌ーJ.S.バッハ

○讃美歌110番

- 1.優しくも愛らしき 嬰兒イエス君
み父の旨とて 人の子の如く
貧しくもなりましぬ
- 2.優しくも愛らしき 嬰兒イエス君
み父の怒りを 宥めて我らの
贖いとなりましぬ
- 3.優しくも愛らしき 嬰兒イエス君
あめなる喜び 降してこの世の
慰めとなりましぬ
- 4.優しくも愛らしき 嬰兒イエス君
全てを献げて ぬかずく僕を
守りませ とこしえに

アーメン

※礼拝のしおりと讃美歌をお持ちください。

○聖歌隊による讃美

「ほめたたえよ創り主を」 (古いオランダの聖歌)

ほめたたえよ 創り主を
きよきみ前にひれ伏し
捧げまつれ 身をも魂(たま)をも
類なきみ名を あがめて
くすしきかな 神の力
荒ぶる波を しずめて
危うきより み民を守り
この世の悩みに 勝たしむ
めぐみの神 栄の主を
もろごえあげて たたえよ
強き手もて 導きたもう
主にのみ み栄尽きざれ

○讃美歌279番

- 1.世のほこる 知恵とさとの
頼りがたきを 知らしめたまえ
月かげの 青きより澄みて
わが魂に そそがせたまえ
まことのひかり
- 2.世のしたう 愛となさけの
移り易きを さとらせたまえ
あかつきの ひかりより清く
わが魂に みたしめたまえ
とこしえの愛
- 3.主にありて 生くるわが身の
きよき喜び うたわせたまえ
真理 愛いのちも望みも
主よりいずれば あおがせたまえ
イエス・キリストを アーメン

聖餐曲「朝露の園をひとり歩む時に」 D.ワット

後奏曲「汝のうちに喜びあり」 J.S.バッハ